

令和5年度 香川短期大学

学校推薦型選抜後期・一般選抜後期

『小論文』問題用紙

令和4年11月30日（水）にモロッコで開催されたユネスコ無形文化遺産保護条約第17回政府間委員会において、まんのう町の「綾子踊（あやこおどり）」や綾川町の「滝宮の念仏踊」を含む、「風流踊（ふりゅうおどり）」がユネスコ無形文化遺産に登録された。ユネスコ無形文化遺産への登録は四国では初めてのことであり、各町では大いに盛り上がりを見せている。

文化庁の報道発表の資料には、風流踊りを次のように紹介しています。「華やかな、人目を惹く、という「風流」の精神を体現し、衣裳や持ちものに趣向をこらして、歌や、笛・太鼓・鉦（かね）などの囃子に合わせて踊る民俗芸能。除災や死者供養、豊作祈願、雨乞いなど、安寧な暮らしを願う人々の祈りが込められている。祭礼や年中行事などの機会に地域の人々が世代を超えて参加する。それぞれの地域の歴史と風土を反映し、多彩な姿で今日まで続く風流踊りは、地域の活力の源として大きな役割を果たしている」。

この二つの踊りは千年以上の歴史をもっている。そんなに歴史は古くなくても、あるいは踊り以外にも、歴史ある街並み、自然が豊かな風景、郷土料理、季節毎に開催される地域のお祭りやその土地に脈々と伝わる伝統工芸、地域独特のコミュニケーション方法や方言など、様々な事柄が地域の伝統を作り、地域を個性豊かなものになっている。社会の変化は激しいが、地域の文化を保存し、次の世代に伝えていくことは、今を生きる私たちの責務のひとつであろう。

設 問

上記の文章を読んで、地域文化の保存と継承という観点から自分でテーマを考えて小論文を書いてください（800字以内）。

川崎市に日本理化学工業という会社があります。学校で使うチョークの製造を行っている会社ですが、ユニークなのは全従業員 90 人のなかで 63 人が知的障がい者、なかでも 26 人は重度の障がいがある人たちである、という点です（数値は 2022 年 2 月現在）。

日本理化学工業は昭和 12 年に設立され、知的障がい者の雇用は昭和 35 年から始まりました。この年に 2 人の生徒が採用されています。そのきっかけは何だったのでしょうか。

一つは、障がい者雇用の制度が整っていなかった昭和の時代、近隣の特別支援学校の先生から卒業生を採用してほしいとの依頼があったことでした。この時、知的障がい者の雇用経験がない社長は、「責任を持ってない」とその申し出を断りました。するとその先生から、このままでは働く経験をしないまま生涯を終えてしまう、せめて 2 週間の実習だけでも体験させてもらえないかと、再び強い要望があり、しぶしぶ実習を受け入れたとのことでした。ところが実習最終日になって、一緒に働いていた従業員たちは二人の熱心な働きぶりに感心し、自分たちで面倒を見るからこの二人を雇って欲しいと社長に懇願することになったのです。これが障がい者雇用の始まりでした。

もう一つあります。社長は、福祉施設にいた方が楽で、生活を守られているのではないかと、なぜこの子たちは一生懸命働こうとするのだろうか、と疑問を持っていました。たまたま法事で同席した禅僧にこの疑問をぶつけると、禅僧から「人間の究極の幸せは、1 つは愛されること、2 つ目はほめられること、3 つ目は人の役に立つこと、4 つ目は人に必要とされることの 4 つです。福祉施設で大事に面倒をみてもらうことが幸せではなく、その人たちは働くことによって、幸せを感じているのです」という回答が帰ってきました。この言葉を聞いた瞬間から、社長は世の中の光景も映る色も変わって見えたといいます。そこから「働いて役に立つ会社こそが人間を幸せにする」と自分に言い聞かせ、すべての社員に幸せを提供する会社作りが始まったということです。こうした信念があって、雇用される知的障がい者はしだいに増えていきました。

（この文章は日本理化学工業株式会社のホームページを参考にしました）

設 問

あなたが考える「働く幸せ」について 800 字以内の小論文を作成しなさい。